

## テモテへの手紙第二 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

朝方車のエンジンを開始、出かける準備をしながらなんとなく前を見た。風雨が無花果の葉や枝を揺らし、濡らしている。枝と葉が洗われていると見ればよいことである。しかし、この寒空の下で揺さぶられ、水滴を散らす葉を見るうちに、大変そうな思いになる。それに耐えながら風雨が収まるのを待っているようにも見える。見方によって、厳しい光景でもあり、または恵みの風雨ともなる。鉢植えの無花果の木には必要な水分であり、揺さぶりかもしれない。周囲がどのような状況になっても、無花果の木はそのまま在り、育つまま伸びてゆく。時がくれば、大きな繁みを出入り口に繰り広げる。車の出入りに注意しなければならぬほど大きく育つ。そして、時が来れば、ほとんどの枝が切り取られてしまう。それでも、次の季節には同じように枝葉を広げる。

時が良くても悪くても、見る者の見立てがどうあろうとも、無花果の木はそのまま無花果の木である。そうあることが、見る者の目を引き付け、しかも飽きさせない。同じように見える無花果の木だが、乗り越えてきた時の実を見せる、良い木として見る者を励ます。

2021年12月9日